事務所通信　No.365

令和８年３月１日

社会保険労務士法人

新潟県新発田市新富町１丁目５番９号　*篠田パートナーズ事務所*　☎0254-22-5649㈹

～建設業の事業主の皆さまへ～

特定の工事に付随しない業務の労災保険成立

所属労働者が特定の工事現場に付随しない業務を行う場合は事務所等の労災保険（継続事業）を成立させる必要があります。建設業の一括有期事業または単独有期事業の労災保険の適用範囲は、工事現場に関係するものに限られるため、事務員の事務業務・建設業務従事者の「特定の工事現場に付随しない業務」（所属事業場内での作業・資材置き場等での整理整頓・見積書作成のため取引先への現場状況確認・事業として行わない除雪作業等）については、「事務所等の労災保険」の成立と申告が必要となります。

＊「特定の工事現場に付随しない業務」は、原則、元請事業が関連しておらず、かつ、有期事業にも該当していないことが前提です。

▶「事務所等労災」の保険料の算定方法

⇒工事現場等における業務と「特定の工事現場に付随しない業務」の双方に従事する労働者がいる場合は、当該労働者について、「特定の工事現場に付随しない業務」に従事した部分の賃金額の根拠となる資料（出勤簿や出面等）を元に算出します。根拠となる資料がない場合は、実態から当該作業の日数・時間数を推算し、これに応じた賃金額を算出します。



「特定の工事現場に付随しない業務」に従事させる建設業務労働者がいない場合、または、「特定の工事現場に付随しない業務」に従事させる可能性が全くない場合は、「事務所等労災」の保険関係を成立させる必要はありません。



▼ポイント４コマ解説



正しく加入していない場合、万が一の事故の際に給付が受けられなかったり、費用を徴収されるなどのリスクがあります。

詳しくは、厚生労働省「建設事業主の皆さまへ」👉

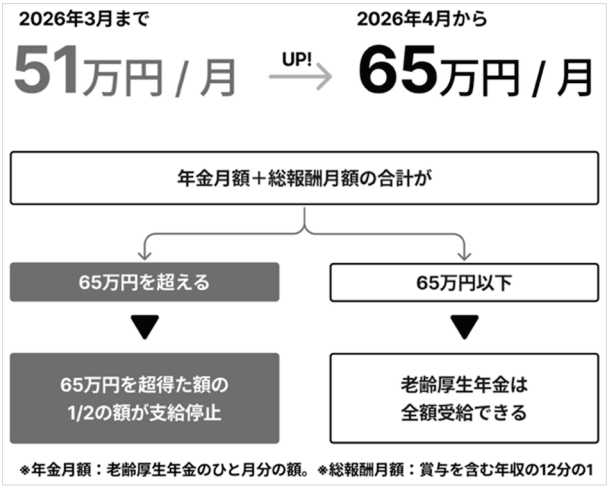


自社の業務が該当するかどうか、区分に迷われた際は、当事務所までご相談ください

在職老齢年金制度が改正

年金が減額になる基準額が引き上げに

働きながら年金を受給する高齢者について老齢厚生年金の支給額を調整する仕組みである「在職老齢年金制度」が見直されました。令和８年４月から、年金が減額になる基準額（賃金と老齢厚生年金の合計）が月51万円から65万円に引き上げられます。平均寿命・健康寿命が延びる中で、働き続けることを希望する高齢者の方の活躍を後押しし、より働きやすい仕組みとすることが今回の見直しの趣旨です。※法律成立時は基準額62万円でしたが最終的に基準額65万円に改定されました。



マイナンバーカードの有効期限

本年、マイナンバーカードの交付開始から10年となり、更新時期を迎える方が多いことが予想されます。更新手続きは誕生日の３か月前から可能ですので、市役所から通知が届いたら更新手続きを行いましょう。




《２つの期限》

★カード本体：発行から10回目の誕生日まで

★電子証明書：発行から５回目の誕生日まで

※マイナ保険証として使うための「電子証明書」は５年で更新ですが、期限が切れても３か月間は受診できる猶予があります。

健康保険・介護保険 保険料率の変更

令和８年３月分保険料より、健康保険・介護保険料率が下記のとおり改定されます。

令和８年４月分からは、少子化対策の財源を確保するため、「子ども・子育て支援金」が開始されます。（子ども・子育て支援金制度）



名称	保険料率	前年比
健康保険料率（新潟県）	9.21%（被保険者4.605%）	0.34%↓
介護保険料率（全国共通）	1.62%（被保険者0.81%）	0.03%↑
子ども・子育て支援金保険料率（全国共通）	0.23%（被保険者0.115%）	--
厚生年金保険料率（全国共通）	18.3%（被保険者9.15%）	変更なし

注）3月支給の賞与がある場合、改定後の料率で計算した保険料を控除してください。
注）保険料を当月給与から控除している場合、3月支給給与から改定後の料率で控除してください。

Q「子ども・子育て支援金制度」って？

A 全ての世代や企業から支援金を拠出し、子育て政策の拡充に充てるもので、こどもや子育て世帯を社会全体で支える制度です。

Q どうして「支援金制度」が必要なの？

A 近年、少子化・人口減少の進行が加速していることから、政府は令和５年12月に、こども未来戦略「加速化プラン」を策定し、総額3.6兆円の子ども・子育て支援の拡充を実施することを決めました。支援金制度はこれを支える財源の一部です。



☆下記の本にご興味のある方は、是非、本屋さんへ！！

■ 拾い読みの読書

みんなの高校地学

著　者／ 鎌田浩毅　蜷川雅晴
出版社／ 講談社　BLUE BACKS　1,300 円＋税

おもしろくて役に立つ、地球と宇宙の全常識

P21　近年、日本各地で頻発しているのは内陸地震で、地表から20km以浅で起きています。その原因は2011年の東日本大震災です。・・それまでは海洋プレート（太平洋プレート）が大陸プレート（北米プレート）の下に沈み込むことで、陸のプレートには押される力が強くかかっていました。その力関係が、M9.0の巨大地震によってプレート間の個着域が破壊されたことで・・大陸プレートの先端が跳ね返って海側に引き延ばされた結果、・・陸のプレートの先端で生じたひずみを解消しようとして・・内陸地震が起きはじめたのです。・・少なくとも今後数十年は、このペースで内陸地震が続くものと考えられます。・・よって、首都直下型地震をはじめとして・・速やかに地震防災対策を策定する必要があるのです。

P23　内陸地震のもう一つの懸念が、2030年代に発生が予想されている南海トラフ巨大地震です。西日本の太平洋側は約100年おきに海溝型の巨大地震に襲われていて、その発生前後に内陸地震を活発化させるのです。・・・南海トラフ巨大地震は東から東海地震、東南海地震、南海地震という３つの部分から構成され、次回は約300年に１度の頻度で三地震が連動するタイミングに当たります。さらに宮崎県沖の日向灘の震源域が加わった四連動地震となる可能性も高いのです。・・・実は、南海トラフ巨大地震の発生時期はある程度予測可能です。・・・陸の地盤が規則的に上下する現象から導くことができるのです。・・それを元に次の地震が起きる時期を予測すると、2035年頃となるのです。前後５年の誤差で2030～2040年には確実に起こると地球科学者は予測しています。

■ 拾い読みの読書　Ⅱ

ぼくたちはどう老いるか

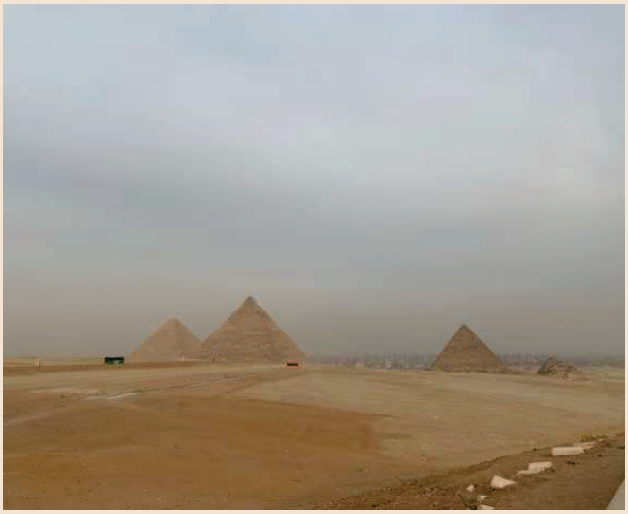
著　者／ 高橋 源一郎
出版社／ 朝日新書　1,050 円＋税

P23　「もうろく」について考えてみる。それは「老い」の一つの兆候でありシンボルだ。ボケてゆく。頭の中がボンヤリしてゆく。きちんとものが考えられなくなってゆく。記憶を失ってゆく。今なにをしているのか、さっきなにをしたのか、今日はいつなのか、いつの間に今日が来たのか簡単にいうと、自分がかつての自分ではなくなってゆく。なんだか別の存在になってゆく。それが、「もうろく」ということらしい。

P129　からだが衰え、記憶が衰え、認知も衰える。迫りくる「死」の前には、もっと茫洋とした期間がある。それが「もうろく」だ。

P271　やがて、ぼくたちはみんな、こんな日を迎える。・・それはどんな経験、どんな「初めての日」なのだろう。ぼくは、そのことを知りたいと思う。知って、「その日」に備えたいと思う。・・その日までを、もっと良く生きたいからだ。・・ただなんとなく、ではなく・・「その日」までを、満ち足りて生きたいからだ。

■ 画像通信



エジプトに行って来ました。

事務所 e-mail ： sinoda2@niks.or.jp　　相談役 e-mail ： srsinoda@niks.or.jp

最近の出来事から (365号)

■ 諦め (R8.2.2)

▲近年、うつ病や適応障害で休業する社員の相談が増え、それらに関する本を読むことが増えた。

▲例えば、うつ病の原因は、脳神経伝達物質のバランスの乱れ、生真面目、完璧主義などの気質、ハラスメントや仕事での失敗、家族との死別などの苦しみや結婚、昇進、栄転など生活環境の大きな変化等の要因が重なり発症し、ゆっくり休養してエネルギーの回復を図ることが良いとされ、怪獣と闘い、胸のパワー消耗警告ランプが灯ったウルトラマンを重ねた。

▲適応障害は、人間関係のトラブル、職場でのプレッシャー、近しい人との死別など特定のストレスで心や体が適応出来なくなることで発症し、ストレスの軽減や休養が重要とされていた。

▲本を読みながら、自分もうつ、適応障害になりかけたことが一度ならずあったことに思い当り、如何にして乗り越えたかを考えたとき「諦め」の言葉に助けられたことに行き着いた。

▲「諦め」は「明らむ」で、「断念、投げ出す」ことではなく、「悪い状態を仕方のないものとして受け入れること」との肯定的なものであることを、57歳で急逝した父の戒名の一字に「諦」を入れた和尚から教えられていたのだ。

▲どう藻掻いても変えることが出来ない状況であれば、いつまでもウジウジ思い悩むのをやめ、毅然と状況を受け入れて前に進むと決めたときの、エネルギー復活の光明が蘇る。

▲発症原因を他者に求め、責任追求が唯一の回復手段であるかのよう独り相撲を取る状況を見るにつけ、和尚の教えを伝えたくなる。

■ 旅仲間 (R8.2.6)



▲2011年のトルコ旅行以来の旅仲間と今回はエジプトに行くことになった。

▲旅は、数か所の候補の中から皆の日程が合うツアーに申し込むのだが、今回も場所を決めるのに２回、決まってから結団会、直前打合せと称して２回の飲み会を開き、女房たちからは「飲むことが目的の旅」と言われるとおり、その地の歴史、地理など詳しく調べて行ったことがなかったが、帰る度にもっと予習して行けば良かったと言い合うのが常だった。

▲その反省を込めて今回の旅は、インターネットで訪ねる場所の位置や気温、降水量など確認して服装や備品を揃え、中公新書「古代オリエント全史」でギザの「三大ピラミッド」は紀元前26世紀頃建造され、エジプト最後の王朝（プトレマイオス朝）の支配者クレオパトラ７世が生きたのは紀元前１世紀の終わり頃で、日本は縄文萌芽期から縄文後期に当たると知り、悠久の歴史を感じた。

▲また、ユーチューブで、ギザのピラミッド、ルクソールの王家の谷、アブ・シンベルの神殿、古代ギリシャとエジプトの文化が融合した古代商業・海運の拠点アレキサンドリアの風景を頭に入れて行った気分を味わった。

▲同行者も、初めてガイドブックを買って読んだとか、映画「出エジプト記」の録画を見たとか、少しは進歩した旅になりそうだ。

▲ともあれ、旅はその地の風景や風情、人の営みに触れ、食べ物、飲み物を味わい、ちょっとしたハプニングも含め、非日常を楽しむことである。今から機内のワインは赤か白か、エジプトの地酒はと盛り上がり、珍道中間違いなしである。